

令和元年度 学校評価

4・・・計画どおりできている（80％）
 3・・・概ねできている（60％）
 2・・・どちらかというときていない（40％）
 1・・・できていない（20％）

	目指す生徒像		基 本 方 針		努 力 目 標		具 体 的 な 取 組 み			反省・今後の対応	学校評議員からの意見・提言
	内 容	評価	内 容	評価	内 容	評価	内 容	評価			
教務部	(1)「自尊独立」・・自ら考え、主体的に行動する生徒 (2)「流汗悟道」・・知識を生かす知恵（応用力）を身につけた生徒	2.7	本校教育方針に基づく教育課程を編成し、学力向上を図るために、各部・各教科・各学年と連携を密にして、問題解決能力を育成する教育を行うとともに個に応じたわかる授業の推進に努める。	2.7	(1)学力向上と学習指導の創意・工夫	2.9	①「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業研究の推進する。	2.9	○9月の授業研修では、カリキュラムマネジメントの充実を図るために、「単元構造図」の作成に取り組んでもらった。（延べ65名が参観）	○生徒一人一人に身近な目標から将来の目標まで順を追って考えさせることは、重要であると思います。	
						2.6	②専門力の向上と基礎学力の定着するような指導を図る。	2.6	○学習意欲が高い生徒が目立つ反面、意欲の低い生徒への職員の対応がもう少し日常的に行われると良いのではと思う。目の前の目標設定だけにとどまらず、生徒個人の将来への目標を考える指導を充実させるべきではないか。		
						2.5	③学習意欲の低い生徒、成績の思わしくない生徒へ指導を工夫する。 ④学年と連携し、家庭学習の促進・充実を図る。	2.5			
						2.6	⑤5分前行動と授業開始前の着席の推進を図る。	2.6	○具体的に教務としてどんな取組をしたか（する計画か）が分かるようにしたほうがよいのではないかなと思う。		
				2.7	(2) 授業時数の確保	2.7		2.7	○学校行事については、職員会議に出る前段階で、いかに綿密な計画が立てられるか（事前の検討・連携）にかかっている。出てしまっでは、修正がなかなか効かない。		
				2.7	(3)学校行事の運営	2.7	①計画的に行事を運営する。②学校行事を工夫する。	2.7			2.7
2.6	(4)情報の活用	2.6	教育活動の情報を活用するため、広報情報部と連携する。	2.6		2.6	○次年度の生徒募集に関して、合同会議の必要性を感じている。				
進路指導部	正しい職業観・勤労観を身につけた進路意識の高い生徒	3.1	3年間を見通したキャリア教育を体系化することにより、生徒の進路意識の明確化を促し、進路意識の達成を図る。	3.1	(1)生徒の進路意識の喚起		①学年会との連携を図り、効果的な進路指導を行う。	3.4	○3年生の進路決定に向けて、多くの先生方に、進学課外・面接・小論文・口頭試問などの指導をしていただき、有り難うございました。	○農業高校に入って学科の教育内容に沿った就職先に就職することは当たり前前で、素晴らしいことです。今年度は宮大教育学部に進学した生徒がいるように、多様な進路先も選べるようにしていただきたい。これからも進路指導の充実にも努めていただきたい。	
							②総合的な探求の時間およびLHRなど3年間を見通した指導を行う。	3.0	○3年学年会と協力しながら、生徒情報を含む情報の共有化に努め進路指導にあたってきた。		
							③進路ガイダンス・オープンキャンパスや各種講座等の有効活用を促進する。	3.3	○ガイダンスについては、1月に3年生による進路体験発表会、2月に進学座談会、そして2年生は「就職ガイダンス」に参加する。また1・2年生より進路希望別集会などの要請があれば対応したい。		
							④進路希望調査を毎学期実施し、その活用を図る。	3.4	○1・2年生対象に作文模試を実施するが、その添削結果を今後につなげたい。		
							⑤進路委員会の活動として、進路便りを定期的に発行し、進路意識の喚起を図る。	3.1	○進路委員会の活動の一つとして、進路便り「サクラサク」を第9号まで出している。		
				(2) 目標達成のための	3		⑥進路実現のための学習指導を実施する。	2.7	○「くろがねセミナー」の立ち上げが、1・2年生の大学受験者の意欲喚起につながった。		
							⑦生徒理解のために、計画的な面談を行い記録化する。	3.1	○3年夏休みの全員課外については、より効果的な取り組みができるように改善し、国公立大の受験生徒への対応についても、昨年よりも2ヶ月早く立ち上げ、充実した取り組みを直前まで実施できた。		
							⑧模擬試験を実施し、自己の学力の点検と課題を理解させる。	2.9	★課題として、まだ進路先の決まっていない3年生生徒への対応がまず挙げられる。そして就職については、内定ラインが厳しくなっている企業もあるので、今年度の傾向を分析して対応を検討していきたい。また基礎力診断テストの結果の活用の仕方については「学びの基礎診断」も兼ねているので、教務部と連携しながら検討していきたい。		
							⑨面接指導は、学年団・学科と協力して計画的に実施する。	3.0			
							⑩公務員を含めた就職指導の体制を整える。	3.2			
							⑪国公立大学を含めた進学指導の拡充を図る。	3.3			

令和元年度 学校評価

4・・・計画どおりできている（80％）
 3・・・概ねできている（60％）
 2・・・どちらかというとできていない（40％）
 1・・・できていない（20％）

目指す生徒像			基 本 方 針		努 力 目 標		具 体 的 な 取 組 み			反省・今後の対応	学校評議員からの意見・提言
内 容	評価		内 容	評価	内 容	評価	内 容	評価			
生徒指導部	本校での教育活動を通して自己実現を図り、将来の夢に向かって羽ばたける生徒。 宮農生としての自信と誇りを持ち、社会や地域の発展のために貢献できる生徒。 思いやりを持った心身ともに健全な生徒。	2.9	生徒指導の重要性について全職員の共通理解のもとに一体となった指導を行う。また、生徒一人ひとりの個性伸長を図りながら、人としての「在り方」「生き方」を考えさせ、思いやりを持った心身ともに健全で人間性豊かな社会人を育てる。さらに、社会生活に必要な規則を遵守する習慣と自主・自律・責任感を培い、良識と勇気ある態度を育成する。	2.9	(1) 生徒会活動・各種委員会活動の充実	2.8	①自ら考え、自ら実行する生徒会活動を目指す。	2.8	(1) 生徒会活動・各種委員会活動の充実 体育大会、文化祭など大きな行事を、生徒会、農業クラブ、家庭クラブの頑張りのおかげで乗り切ることができた。ただ、各種委員会活動も含めて、生徒の自主的な活動として行っていない面もあり、生徒を育てる体制づくりが必要である。	○携帯電話は、授業や学校生活に支障があつてはいけ ないが、登下校時や他の場面で必要な場合もあるの ではないか。持ち込み禁止だけではこれから困難とな るのではないだろうか。 ○高校の生徒指導が非常に厳しいと考えます。保護者 も学生も価値観が変化しつつあります。生徒の指導 は、人権やパワハラ、セクハラ、体罰禁止等があり、 個別の指導が難しくなっています。生徒の訴えを十分 に聞き、丁寧にゆっくりと指導してください。 ○携帯の校内への持込については、いろいろな件が あると思いますが、現状はほとんどの生徒が持ち込ん でいます。小中と連携し、携帯の影の部分をしっかり 教えるとともに、携帯の正しい使い方や校内でのきま り等を理解させる時代ではないかと思います。 ○服装や容姿の乱れ、遅刻生徒の固定化、不登校生徒 の存在など課題も多いと思いますが、丁寧に指導をこ れまで通りお願いします。 ○部活動は、勉学以外の学びの場として、是非全員加 入を続けてほしいと思います。 ○生徒指導に当たっては広範囲にわたり、「概ねでき ている」という評価がなされていたが、反省の中で 「生指内規集や生徒指導マニュアルなどを作成する必 要性を感じているとあった。大いに賛成である。生徒 手帳に生徒が守るべき決まりごとが書かれているが、 それを実践させ守らせるための指導は統一しておく べきである。先生方の経験による指導教育はそれぞれの ものがあると思うが、宮崎農業高校における生徒指導 の基本的な考え方は統一してマニュアル化するの が いいのではないだろうか。 ○交通安全教育については、小さな事故が、いつ大き な事故になるかもしれな いので、交通法規を遵守し 通マナーを守らせるための日常的な指導が大事である と考える。宮崎県警や所轄の宮崎南警察署からの出前 講習等を活用し、交通安全に対する意識を向上させて いくべきである。 ○携帯電話・スマートフォンの学校持ち込みに関して は、県高P連が方針転換して許可の方向に動き出した 旨の報道がなされていましたが、学校の方針として持ち 込みを許可すべきではないだろうか。その上で、高校 生としての使用方法についての確な指導を行うべきで ある。反省で述べられていたように、情報リテラシー については生徒のほうが上 回っていることは十分に考 えられるので、先生方の研修は必要と考えられる。	
						3.0	②生徒会活動・各種委員会活動を通して、行事等へ自主的・積極的に参加する生徒の育成を図る。	3.0			
						2.5	③農業クラブ・家庭クラブとの連携を深め活性化を図る。“分かりやすい”生徒指導の実践。	2.5			
					(2) いじめのない学校作り	3.0	①「いじめはどこでも起こりうるもの」という前提の下に、本校いじめ防止基本方針に決められたとおりの活動を行う。	3.0	(2) いじめのない学校作り 学校生活アンケート等をとおして実態把握と、事後指導に取り組むことができた。また、教育相談部との情報共有により、生指部から見えない生徒の一面を理解することができ、様々な問題行動、トラブルに柔軟に対応することができた。ただ、アンケート等で把握できない事実等が潜在化しないように、職員の危機意識をどう高めていくかが課題である。		
						(3) 基本的生活習慣の確立及び規範意識の高揚	3.1	①規範意識の高い生徒、礼儀正しい生徒(服装・言葉遣い)の育成を図るために、立ち番指導、容儀指導をはじめ、日常的な生活指導を充実させる。			3.1
					(4) 部活動の活性化		3.0	②各校務分掌と連携して、基本的生活習慣が確立されていない生徒が生活改善できるようにサポート体制を整える。	3.0		(3) 基本的生活習慣の確立及び規範意識の高揚 朝の立ち番指導に加えて、下校時にも正門で一声掛ける取り組みを行った。客観的な評価を行うデータは取っていないが、ジャージ等で下校する生徒は減ったのではないが。著しく規律を乱す生徒はいないが、容儀指導、基本的生活マナー等の指導困難な生徒もいる。「だめなことはだめ」と指導できる体制作りが必要である。
						(5) “分かりやすい”生徒指導の体制作り	3.3	①1年生全員部活動制が生徒指導上有意義と捉え、今年度も制度を維持する。また、定期的に活動調査を行い、定着率の向上を図る。	3.3		
					(6) 交通安全・情報モラル教育の徹底		2.9	②本校における部活動活性化及び強化の在り方について、環境面、予算面からの方策を検討していく。	2.9		(4) 部活動の活性化 部活動加入率91％で、2、3年に進級しても部活動を継続する生徒が多く、1年生全員部活動加入は一定の成果は上げているが、形骸化を避けるためにも活性化、強化の方向性を明確にする必要がある。
						2.9	③誰からも応援される部活動作りを目的に、定期的に部活動生集会を開催して指導を行う。	2.9	(5) “分かりやすい”生徒指導の体制作り 容儀指導や携帯電話持ち込み、無許可アルバイトの指導において、校内での指導の差を保護者、生徒から指摘される場面が例年より多かった。生指内規集や生徒指導マニュアルなどを制作する必要性を感じている。		
					(7) 地域、家庭との連携を図る。	2.8	①全職員が共通理解を持って生徒指導を行えるような研修、資料作成等を行なう。	2.8			(6) 交通安全・情報モラル教育の徹底 携帯電話・スマートフォンの持ち込みや使用方法に関する生徒指導案件があったことや、アンケートの結果などを考慮すると、情報モラル教育の指導が必要。交通安全についても、大事故はなかったが小さな事故は日常茶飯事であり、被害者、加害者両方になる危機意識を生徒に持たせるにはどのような取り組みが有効か考えていく必要がある。
2.9	②保護者、生徒が学校の指導方針を良く理解し、「宮農ブランド」確立に向けて共に歩めるように、積極的に情報発信を行い、綿密なコミュニケーションを図る。	2.9									

令和元年度 学校評価

4・・・計画どおりできている（80％）
 3・・・概ねできている（60％）
 2・・・どちらかというときていない（40％）
 1・・・できていない（20％）

目指す生徒像			基 本 方 針		努 力 目 標		具 体 的 な 取 組 み			反省・今後の対応	学校評議員からの意見・提言
内 容	評価		内 容	評価	内 容	評価	内 容	評価			
農務部	自らの力で地域社会の発展に貢献しようとする気概を持った生徒	2.7	時代の進展に対応し、地域の特性を生かした農業教育に取り組み、地域社会の発展に貢献できる人材の育成を目標とする	2.7	学科の教育目標を明確にし、座学と実習を連動させた向上心を育む特色ある農業教育の体制を整える。	① 各学科・各部門における特色ある教育活動の実施	2.9	○ICTを十分に活用できる農場になっていないため、職員研修ができていない状況である。 ○特別会計だけでは施設・設備の改修が追いつかない状況である。危険な箇所等もあり計画的に修繕に取り組む必要がある。 ○GAPは職員2名派遣し、指導員の資格を取得した。追加で2名受講予定。次年度より国庫補助がなくなるため指導者の養成が困難。GAPを取得する事より、GAP教育を行う事に重点的に取り組む。 ○工程管理の重要点明示などしっかり整えHACCPに取り組むようにしていく。 ○農業クラブは九州大会上位入賞ならず。農業鑑定は全国大会で農業・園芸・食品で優秀賞。講習会などでさらなるレベルアップを図りたい。 ○機械の使用について、職員の共通理解が図れた。安全面に配慮した使用や装備などさらなる充実が必要である。	○ICT学習は、宮農だけで研修するのではなく、他の農業高校との連携で合同の研修会を行っていく必要がある。 ○「援農隊プロジェクト」を拝見しました。生徒が田野町で大根の実習をしていました。素晴らしい取り組みだと思います。実習は生徒が自分らしさを出せる時間です。学校の学びが学校を飛び出し、現場で体験することにより学校の学びを深く理解します。多くの実習を体験させ、学校の学びをさらに深めてほしいと思います。 ○ICTは今後の農業の主流となることが予想されるので、研修等は充実させていくことが重要と考えます。		
						② ICTを活用した教育内容の充実のための主体的な職員研修の実施	2.3				
						③ 特別会計の活用の推進、施設・設備の充実	2.5				
						④ 社会の進展に応じた教育、GAP（農業生産工程管理）HACCPへの取組	2.6				
					専門学習を基盤にした自ら考え主体的に行動する能力や問題を解決する能力を育成することで、地域社会を担える人材の育成を図る。	① 農業クラブ活動の充実	2.7				
						② 関係機関や地域との連携による教育の推進	3.1				
						③ 環境教育・安全教育の充実	2.6				
						④ 専門学習の深化を図る資格取得の推進	2.8				
保健	自分を大切にし、自己の健康管理ができる生徒	3.2	生徒の健康の保持増進をはかる	3.2	保健教育・保健管理の推進と生徒保健委員会の活性化	① 日常的な生徒の心身の健康状態の把握と適切な指導	3.4	○薬物乱用防止教室等計画通りに実施することができた。 ○保健授業の他にも外部講師の方を呼んで薬物乱用防止教室等を実施でき、多方面から生徒へ健康教育を行うことができた。 ○2学期は行事がいくつかあったが大きなケガもなく終えることができた。文化祭に向けて保健委員会の生徒たちも展示にむけて頑張っていた。薬物乱用防止教室と保健の授業を繋げることで、より一層生徒たちの保健教育になっていると思われる。	○「高1クライシス」が叫ばれています。入学後に学業になじめなかったり、遠距離通学の悩みや友人ができなかったり等により、進路変更をする高校一年生がいます。これまで通り入学後の新入生の心の悩みを聞く機会を多くしていただきたいと思います。		
						② 健康診断の事後処理の徹底と生徒の健康の保持増進	3.2				
						③ 生徒の安全意識の向上	2.8				
						④ 健康教育の充実	3.4				
						⑤ 保健委員会の活性化	3.2				
							図書部			読書に興味関心を抱き、資料などを利用して学習上の疑問点などを解決しようとする姿勢を持ち、主体的に図書館に足を向ける生徒	3.4
② 朝の10分間読書の充実を図る。	4.0										
③ 各種広報を通して生徒の読書意欲の喚起に努める。	3.3										
④ 図書閲覧室の、HR活動や授業における利用を促進する。	2.0										
⑤ 新入生に図書オリエンテーションを実施する。	3.7										
2 環境作り	① 図書館内外の静粛で清潔な環境作りに努める。	4.0									
	② 生徒の就職・進学の準備に役立つ図書資料を整える。	3.3									
	③ 蔵書に関する各種のデータを適正に管理する。	4.0									
3 視聴覚機器の活用	④ 生徒・職員の利用実態に即した図書の選定・購入を計画的に進める	3.0									
	① 視聴覚教材、機材の整備・管理を徹底する。	3.0									
4 委員会活動の充実	② 視聴覚教材、機材の活用を促進する。	3.0									
	① 図書委員会の活動を促進しHRとの連携を図る。	3.7									
	② くらがね祭に積極的に参加する。	3.7									

令和元年度 学校評価

4・・・計画どおりできている（80％）
 3・・・概ねできている（60％）
 2・・・どちらかというとできていない（40％）
 1・・・できていない（20％）

	目指す生徒像		基 本 方 針		努 力 目 標		具 体 的 な 取 組 み		反省・今後の対応	学校評議員からの意見・提言
	内 容	評価	内 容	評価	内 容	評価	内 容	評価		
渉外部	進路実現に向け何事にも積極的に取り組み、学校に誇りを持てる生徒。	2.8	本校の教育目標を実現するため、教職員及び保護者の共通理解・連携を深める。さらに、生徒の健全育成をはかり、進路目標実現するための活動や研修・広報活動に取り組むなど、PTA諸活動の充実・発展に努める。	3.0	各種専門委員会の活性化、保護者・同窓会との連携	3.0	①各種専門委員会及び学年・学級などのPTA諸活動の活性化と充実を図る	3.5	○各専門委員会において、保護者・職員の協力により充実した取り組みができた。来年度は、要点を絞りスリム化ができるように努力していきたい。	○同窓会は学校の強い見方であり応援団です。これまで通りくろがね会と強いつながりを継続していただきたいと願います。 ○日頃から卒業生とのつながりを重視し、情報発信を工夫していくと良い。
							②本校発展のための協力体制を確立するため、同窓会（くろがね会）会員相互の連携を図る。進路について指導・協力を求める。	2.0	○PTA関連の会議等には積極的に参加をし、交流会を始め、たくさんの意見交換も出来た。さらに、今年度は県高P連「農業・水産科部会」の事務局校だったが、執行部の役員の方が積極的に動いてくれたおかげで、無事おえることができた。来年度は、九州高P連大会が宮崎で開催されるので、良いおもてなしができるように、県内の高校のPTA役員と協力して進めていきたい。	
							③県高P連・中地区の各高校PTAとの情報交換及び交流を進め、諸活動の充実を図る。	4.0		
環境整備部	環境美化の必要性を認識し、真面目に清掃活動を実践できる生徒。	3	本校の教育目標に則って、全職員の共通理解のもとに生徒の美化活動・緑化活動をおして学校並びに地域の環境を美しく維持発展させることに努める。	3.0	(1)清掃及美化活動の徹底	3	①通常清掃で普通科棟の清掃指導を徹底する。	3.0	○2学期は行事も多く、校内美化に気を遣う場面が多かったが、そのたびに先生方が積極的に活動してくださり助かった。 ○校外からの問い合わせの対応の仕方に改善が必要と感じた。 ○通常清掃を更に充実させる努力が必要に思う。	○環境が人を育てるという言葉があるように、ごみ一つないきれいな学校をさらに目指していただきたいと思います。
							②通常清掃で特別教室棟の清掃指導を徹底する。	2.8		
							③通常清掃で外庭の清掃指導を徹底する。	2.9		
							④大清掃での清掃指導を徹底する。	3.2		
							⑤清掃用具の整備、愛護に努める。	2.7		
					(2)美化活動・ゴミの減量化	2.7	①ゴミの分別指導を徹底する。	3.1		
							②学校への持ち込みゴミの持ち帰り指導を行う。	3.0		
							③授業など生徒の教育活動が環境の美化からはじめさせるよう努める。	2.7		
					(3)美化委員会の活性化	3	①美化委員会の活動を活性化する。	2.9		
広報情報部	母校に自信と誇りを持ち、幅広く情報を活用して自己の進路や生き方の選択に生かすことのできる生徒	2.6	本校の教育活動を、地域へ積極的にアピールしていく。 校務を遂行できるような情報機器の普及整備を行い、教育の情報化を推進する。	2.6	(1)学内外からのニーズに的確に対応した、より戦略的・重点的な広報。	2.9	中学生と保護者、中学校職員への広報	3.0	【広報関係】 ○横断幕により、生徒や中学生、地域への広報につながった。 ○中学校での高校説明会へ卒業生を同行し反応が良かった。実施校数が限られているのが課題である。 ○新聞やテレビなどで生徒の活躍が取り上げられた。課題として、くろがね祭での広報、DVDの更新、中学校へのさらなるPR、同窓会との連携などがある。	○校門横の横断幕は、地域住民や保護者・中学生にとってインパクトが非常にあります。資格取得の状況や部活動の活躍等、横断幕やホームページ等により学校内外への発信を今後とも願います。
							在校生と保護者、地域住民への広報	2.7		
					(2)校務支援システムや情報機器の活用支援及び校務のスリム化。	2.3	校務支援システムを誰もが安定して使える環境作りと活用の推進に努める。	2.7		
							保護者へのメールシステム活用を徹底する。	2.3		
							タブレット等の情報機器を多くの職員や生徒が活用できる環境作りを努める。	2.0		

令和元年度 学校評価

4・・・計画どおりできている（80％）
 3・・・概ねできている（60％）
 2・・・どちらかというとできていない（40％）
 1・・・できていない（20％）

	目指す生徒像		基 本 方 針		努 力 目 標		具 体 的 な 取 組 み		反省・今後の対応	学校評議員からの意見・提言
	内 容	評価	内 容	評価	内 容	評価	内 容	評価		
人権教育	しっかりとした人権意識をもち、自他を大切にする生徒。	2.5	人権についての理解を深めながら、互いの人権の尊重しつつ、集団の一員としてふさわしい態度をとることの出来る生徒を育てる。	2.5	LHRにおける人権学習の充実	3.0	各学年の特性に応じたLHR計画の立案と実施。	3.0	○各学年統一LHRにおける人権・同和教育は、計画通りに遂行できた。 ○2学期のLGBTについての講演会には多くの先生方にも参加して頂き、内容的にも有意義なものであった。 ○次年度の2学期講演会については、「日本人の人権意識」というテーマで、外国人（AＬＴなど）を招いてのパネルディスカッションを行ってみてはどうかという意見がでている。今後検討していきたい。	○人権に関しては、宮日がLGBTを集集する等、これまでのように学校で画一化した指導が難しい時代に入りました。また、体罰も許されない状況です。教職員の人権研修はもちろんのこと、生徒へもLHRなどを活用して人権学習の機会を増やしていただきたいと願います。 ○人間性を高めるためには、研修を大事にして頂きたい。
					職員研修の企画・実施	2.0	2学期に実施（部落差別の歴史またはLGBTに関して）できるよう各部署と調整する。	2.0		
					人権啓発の資料や情報の配布	2.0	2学期の統一LHRに向けた資料の準備および、生徒感想文の集約。	2.0		
					関係する研修会・大会への積極的参加	3.0	8月と2月の県大会に向けて、先生方やPTAの方々の積極的参加をお願いする。	3.0		
事務部		3.5	本校教育目標の実現に向けて、各部・各科との連携を図り円滑な学校運営を推進するとともに、教育環境の整備・充実を図る。	3.5	(1)法令を遵守し、相互牽制を図りながら迅速で適正な事務処理に努める。	3.8	①根拠法令を確認しながら起案を行うとともに、相互牽制を図りながら迅速かつ適正な事務処理に努める。	3.8	○予算の執行について、各科とも計画的な執行をしている。新規要望等は随時提案していただき、実現に向けて日々の節約をお願いしたい。執行状況については定期的に配信予定である。 ○年度末に向けて、予算の調整を行うため、早めの計画・執行をお願いしたい。	○実習林伐採において利益を得どころか、費用計上されていることに驚いた。これは、経営ではなく学校の管理下におかれているためだと思われるが、本来ならばスギ材の伐採で利益を上げるのが得策だと思う。 ○県の財政が厳しい中、これまで以上の予算は厳しいと思います。年々予算が削られ、事務部は厳しい予算設定をされているのではないかと思います。
					(2)計画的かつ効果的な予算執行に努める。	3.2	②各部・各科へ早期に予算配分を行うとともに、常に全予算の執行状況把握に努める。	3.2		
					(3)施設・設備の整備充実を図り、教育環境の向上に努める。	3.4	③日常点検や予算調査を通じて状況を把握し、早期改善を図る。	3.4		
					(4)環境に優しい物品購入や省エネ対策を推進するとともに、光熱水費の対前年度比3％減を目指す。	3.4	④宮崎県グリーン購入方針に基づくエコ商品の選定・購入を行い、「県庁地球温暖化対策実行計画エコプラン」の取り組みを推進する。	3.3		
					(5)学校の窓口として、より良い接遇を心がけ、開かれた学校の推進に努める。	4	⑤来客や電話など誠実に対応することにより、学校の印象度を高める。	4.0		
					(6)学校諸経費の適正化と透明化を図るとともに、納期内納入の徹底に努める。	3.4	⑥学級担任等と連絡を密にしながら、未納者への文書督促や電話連絡を行う。	3.4		
教育相談係		3.3	生徒一人ひとりが充実した学校生活を送れるよう、相談・助言などの援助活動を、全職員が協力して組織的に行う。	3.3	生徒の多様な相談を受け入れ適切に援助するとともに、調査や面談を活用して、問題への早期対応に努める。	3.6	①目的意識の低下や経済的不安など困難さを持つ生徒に早期に対応できるように努める。	3.5	○学校生活に関するアンケートを糸口とし、係内で分担して当該生徒への面談を行うとともに、面談内容については報告書を作成し関係部署と連携した。 ○生徒理解調査の活用についての説明会を行った。 ○当初の予定通り、2回とも5日間を確保し実施できた。 ○各学年会に出会い情報を係内で共有した。また、生徒指導部会にも毎週情報提供を行った。	○同じ仲間が3年間一緒に過ごすことにより、仲間意識が高まり素晴らしいクラスが出来上がります。今後はさらに教職員による教育相談の充実が求められます。高校生として進路の悩み、家庭のこと、友人関係のこと、成績のことなど思春期には様々な悩みが現れます。アンケートなどを通して、悩んでいる学生を把握したり、その後の教育相談をしたりして、進路変更や退学者が出ない環境をさらに勤めていただきたいと願います
						4.0	②1年生に対して生徒理解のための調査を実施し結果を活用する。	4.0		
						3.8	③教育相談週間期間を計画的に設け、担任の面談の機会を確保する。	3.8		
					学科や学年との連携を深め、組織的に教育相談を行う。	3.2	④学年会での情報収集に努め、早期の組織的な対応をめざす。	3.2		
					関係部署と連携し生徒の特性に応じた対応を組織的に行う。	3.2	⑤特別支援係や生徒指導部との情報共有を図り、生徒の状況を的確に把握するよう努める。	3.2		

令和元年度 学校評価

4・・・計画どおりできている（80％）
 3・・・概ねできている（60％）
 2・・・どちらかというとできていない（40％）
 1・・・できていない（20％）

目指す生徒像			基 本 方 針		努 力 目 標		具 体 的 な 取 組 み			反省・今後の対応	学校評議員からの意見・提言
内 容	評価		内 容	評価	内 容	評価	内 容	評価			
生 物 工 学 科	○農業を科学的に学習し、知識・技術を学習するとともに、将来の目標を高く持って学習する生徒 ○実験実習を通して、実践力・忍耐力を身につけて農業を理解する逞しい生徒 ○学習と特別活動を両立し、心身ともに礼節と向上心のある生徒	2.7	実践学習を通して基礎的な栽培知識・技術を学習し、更に農業を科学的に学習することで、植物の生理生態を理解し、実践力・応用力のある人材の育成を図り、農業後継者や関連産業技術者、大学進学者を育成する。	2.7	生徒の学力、生活習慣などの向上 提出物の徹底と資格取得の充実	2.8	①基礎学力の向上と、関連する進路への指導体制の強化	2.5	<学習面> ○危険物や情報処理、農業技術、農業簿記検定の課外を実施し、取得率向上につながっている。今後は、取得する資格を精選する必要がある。 ○テスト前や期間中も勉強への意欲が低下が見られ、提出物などきめ細やかな指導が必要。 ○2年のインターンシップが非常に充実しており効果的だった。 ○作文コンテストで入賞者が複数出た。今後も機会を作りたい。 <生活面> ○学年によって不登校対策や欠席遅刻が課題である。 ○各種ボランティアに積極的に参加しており、地域から感謝される機会が多かった。 <その他> ○宮崎大学農学部合格など、進路面での成果が上がった。 ○プロジェクト学習のあり方やバイオ部門について学科としてどうするべきか検討していく。 ○学科会を定期的に実施し、情報の共有化を図れた。 ○GAPの推進をより具体的に図っていく必要がある。	○GAPの推進は重要であるので、計画的に進めると良いと思う。	
							②実験・実習など実践学習により、農業に関する知識・技術を習得する。	2.5			
							③農業に関する進学者への指導・支援の強化と合格率の向上	3.0			
							④資格取得の充実を図り、取得率向上を目指す。	3.5			
							⑤基本的生活習慣を身につけさせる。	2.8			
					学科の特色化と指導者の指導力向上	2.8	⑥プロジェクト学習、農業鑑定の推進により、専攻実習や農業クラブ活動の活性化を図る。	2.8			
							⑦先を予測した教科・実習指導・生活指導の充実と、生徒理解の向上	2.3			
							⑧外部講師招聘・先進農家視察・インターンシップ等を積極的に進め、地域との連携強化、学校開放に努める。	3.5			
							⑨職員研修・情報交換を積極的に行い、教科指導・生活指導・農場運営に反映させる。	2.5			
							⑩学級経営・活動、学科集会の充実と支援	2.8			
					施設設備の充実、安全管理の徹底	2.5	⑪学習成果、学習活動などを地域及び中学校にアピールする。	2.8			
							⑫農場・校内の清掃指導の徹底	2.8			
							⑬農場施設・設備、農具等の整理整頓、管理・施錠の徹底、計画的な更新申請	2.3			
							⑭農具・農業機械・農業使用における安全教育の徹底	2.5			
生 産 流 通 科	知・徳・体の調和した人間性をそなえ、社会の発展に貢献できる生徒	2.8	農業生産と流通に関する知識・技術、及び専門教育を通して培った人間性を生かし、社会の発展に貢献できる人材を育てる。	2.8	授業や実習、資格取得などの内容や指導方法を工夫する	3.1	全職員で授業力の更なる向上に取り組む	3.0	○検定試験はこれからの実施である。合格に向けてしっかりとした指導を行う。 ○農業クラブでは、プロジェクト発表Ⅲ類で最優秀賞・県知事賞を野菜流通班が取る事ができた。また、果樹流通班も3位に入賞する事ができた。九州大会に向けて指導を強化していく。農業鑑定競技は点数はとっているが、上位陣の壁が厚く結果として見えてこない。全国大会に向けて指導をしていく。 ○GAP教育に向けて施設設備の改修、並びに整理整頓に取り組んでいるが、まだ十分とはいえない。農務部全体として考えていく必要がある。 ○楠並木朝市や食フェスなど対外的なイベントに参加し、宮崎農業高校のPRも行っている。生徒が外に出て行くことでコミュニケーション力を身に付けさせたい。 ○新たな品種や作物を積極的に導入し、地域に発信できる農業教育に取り組んでいる。	○新たな品種や新たな作物を導入しても珍しいだけで消費者は買わないし売れなく、地域貢献できるはずはありません。それよりも今、地域にあるもの、根付いているものを消費者にどうアピールしていくか。また、農家が経営されている上で、どんな悩みを抱えているのか地域に足を運び、調査し、それを解決するためには何が必要かを、いっしょになって考えて事が大切ではないでしょうか。 ○農業クラブでの取組で優秀な成績を収めることができたのは、評価できる。全国大会でも頑張ってもらきたい。 ○生産だけでなく接客・販売も重要なので、継続的にイベントでのPR等取り組んでほしい。	
							農業技術検定3級、簿記能力検定3級、各種情報処理検定1級の取得を目指す	3.0			
							学校農業クラブ活動を充実させる	4.0			
							農場の施設設備や環境の改善を進める	2.5			
					進路実現のために、指導・支援・情報収集を強化し、学科の特性に応じた進路決定を目指す	2.7	専門教育を生かした進路指導を強化する	3.0			
							地域での活動（楠並木朝市など）を進路指導や進路開拓に繋げる	2.5			
							インターンシップや企業視察、外部講師を活用し、進路指導や進路意識の向上に努める	3.0			
					地域の特徴を取り入れた農業教育を推進し、地域に根ざした特色ある学科を構築する	2.9	キャリア教育の充実を図る	2.3			
							楠並木朝市など地域の活動を通して専門教育の充実を図る	3.0			
							学科の特性を活かした活動に積極的に参加し、地域社会に貢献する	3.0			
							生産・販売・流通・経営など幅広い分野で対応する農業教育を展開する。	2.5			
					人間性を高めるための工夫と努力を行う	2.6	消費者ニーズに応じた農産物の生産・利用のできる柔軟な発想を持たせる	3.0			
							農場での実践教育を通して幅広い人間性を育てる	2.5			
							社会で生きる上で必要なマナーを身に付けさせる	2.5			
地域活動へ積極的に関わり、社会人として必要なコミュニケーション能力を育む	3.0										
							特別活動へ積極的に取り組めるような環境を作る	2.5			

令和元年度 学校評価

4・・・計画どおりできている（80％）
 3・・・概ねできている（60％）
 2・・・どちらかというときていない（40％）
 1・・・できていない（20％）

目指す生徒像			基 本 方 針		努 力 目 標		具 体 的 な 取 組 み			反省・今後の対応	学校評議員からの意見・提言
内 容	評価		内 容	評価	内 容	評価	内 容	評価			
食 品 工 学 科	○向上心を持ち、将来社会人として貢献できる生徒 ○約束を守り、けじめのある生徒 ○何事にも誠実に対応できる生徒 ○人前で自分の考えが述べられる生徒 ○命を大切にし何事にも感謝できる生徒	2.8	日常生活に活用できる食品に関する基本的な知識及び専門的な加工や分析技術を習得させ、自ら意欲的・創造的に取り組もうとする態度を育成し、将来、食品の加工や分析等に関する分野を得意とする人材を育てる	3.0	生徒各自が進路目標を実現できる指導を行う。	2.8	1年次から学科の目指す進路に沿った行事（講話・視察・研修）を実施し、進路意識の高揚を図る。	2.5	○1年生では探求の授業と運動しながら進路について色々なアドバイスをを行うことができた。 ○3年生の面接指導では学科職員全員で協力して指導することができた。 ○1年生での企業視察、菓子職人による講習、2年生ではインターンシップ、南九州大学での体験入学をとおして進路意識の向上を図れた。	○慣れた先生だけでなく、面識のない面接者も取り入れると、緊張感も実感できるのではないかな。	
							各学年において学期ごとに進路に関する調査・面談を実施することにより、それぞれに応じた指導を行う。	3.3			
					社会に通用する生活習慣やマナーを身につける指導を行う。	2.6	日常の容儀指導及び事後指導の徹底をはかる。	2.5			○生徒の変化について気づいたことがあれば、情報交換をする体制で共通理解をもって指導することができた。
							家庭との連携を密に図り、効果的な指導を実践する。	3.2			○担任を通して情報を共有しながら、生徒とのコミュニケーションを大切にしながら指導にあたることができた。
							部活動・農業クラブ活動に積極的に取り組むような環境を作り、体力・精神力・忍耐力及び協調性を身につけさせる。	3.0			○新学習指導要領を基にシラバス及び教育課程の検討の必要性を感じている。
		生徒の進路に必要なとする学習内容の精選を行う。	3.0	教育内容の構造化によって学習内容を明確にし、専門科目の教育課程（単位数）の検討とシラバス（内容）の再検討を行う。	2.5						
		各種施設設備を効果的に活用し、本校農産物を利用した加工食品の研究・開発に努める。	3.0	職員研修を行い活用不十分な施設設備の活用を図り、教育内容を充実させる。	2.8	○肉加工の長期研修に参加することができ、多くのことを学科職員、生徒還元できた。	○食品成分表示への対応、できる範囲内でのHACCP方式の導入をすすめている。				
				大学や地域との連携を図りながら、本校の農産物を利用した加工食品の研究・開発を行う。	3.0						
				学科の加工品を、生徒のアイデアを活かしながらPR活動を行う。	2.4						
環 境 工 学 科	高い規範意識をもち、責任感と協調性を備えた生徒	2.4	環境保全を考慮した地域開発の知識・技術を備えたスペシャリストのおよび社会人としての定着力の育成	2.4	1 基本的な生活習慣の定着と社会人として通用するモラル・マナーの育成	2.3	①挨拶の励行及びエチケット、マナーの遵守	2.0	○日々の生徒の様子を密に保護者に連絡できている。	○宮農でも特色ある学科であるので、人材育成の観点で実習等の取組を期待します。 ○在校生に対するキャリア教育、中学校に対する環境工学科の売り込みを頑張ってもらいたい。	
							②保護者と連携し問題行動の防止、意識の高揚を図る	2.0			
							③家庭・担任・学科との連携を密にし、欠席・遅刻の防止に努める	3.0			
					2 特色ある学科づくりの推進	2.3	④学科の特色及び生徒の実態に応じたキャリア教育の推進	3.0	○県の関係機関や企業、協会との連携により、現地研修や技術指導の機会を設定することができた。		
							⑤実習施設・設備の充実とそれを利用したスペシャリストの育成	2.0			
							⑥測量や土木、環境に関する最新技術の研修の充実	2.0			
							⑦地域及び中学校への積極的情報発信	2.0			
					3 学力向上の意欲を高める	2.3	⑧環境問題と食糧生産への興味関心を持ち、知識・理解を得る	2.0	○学校HPを利用し、学科の情報発信に努め、更に地域や中学校の職員、生徒、保護者への情報PRに力を入れたい。		
							⑨各種資格取得への意識啓発と合格させるための授業および朝課外等の指導体制の確立	3.0			
							⑩「生徒が主体的に取り組む授業」への工夫・改善	3.0			
					4 全員の進路目標実現のための計画的かつ継続的な指導の確立	2.7	⑪主体的な学習態度の育成と家庭学習の定着化推進	2.0	現地研修や企業による技術指導、出前講義等を通じて専門意識の高揚を図りたい。 一人でも多くの生徒が自分の進路目標を達成できるように、受験指導においては学科の全職員を挙げてサポートしたい。		
							⑫関連職種や大学進学に対応できる基礎学力の向上（普通教科との連携）	2.0			
							⑬四年制大学や各種専門職に合格させる指導の確立	2.0			
							⑭専門への意識高揚を目的とした大学・企業との連携強化	3.0			
							⑮土木建設および鉄道関係企業の進路開拓	3.0			

令和元年度 学校評価

4・・・計画どおりできている（80％）
 3・・・概ねできている（60％）
 2・・・どちらかというとできていない（40％）
 1・・・できていない（20％）

	目指す生徒像		基 本 方 針		努 力 目 標		具 体 的 な 取 組 み		反省・今後の対応	学校評議員からの意見・提言				
	内 容	評価	内 容	評価	内 容	評価	内 容	評価						
生活文化科	・家庭の専門分野に関する知識・技術及び技能を身につけた生徒		食物、被服、保育、家庭看護・介護などの各分野を体験的、総合的に学習し、専門分野の基礎的・基本的な知識・技術及び技能を身につけさせ、生活文化の伝承と創造に寄与する能力を養う。各種検定にも積極的に挑戦させ、知識や技術の定着を図るとともに、地域との連携を推進し、将来生活関連産業で活躍できる人材を育成する。	3.1	授業力及び指導技術の向上	3.0	①主体的・対話的な深い学びを取り入れた授業改善	2.8	①9月の研究授業を通して研修を行うことができた。 ②検定に向けた生徒の取り組みはよく、検定指導を通して専門の知識・技術の習得が見られる。技術力の低下への対応が課題。 ③生徒の主体的な活動に向けての支援が必要。 ④ホームプロジェクトで県大会に出場し研究の成果を発表できた。生徒の主体的な取り組みを促すことができた。 ⑤ファッションショーは生徒の学習成果を発表できる貴重な場となっており、大変感謝している。内容充実を図りたい。 ⑥4年生大学への指導を進路指導部主体で行っていた。学科との連携を強化し、さらなる充実を図りたい。 ⑦計画通り実施できた。デュアル教育システムを導入できた。 ⑧計画的に実施している。形式化しないよう心がけた。 ⑨出席状況は悪くはないが、数名ほど欠席が多い生徒がいる。 ⑩服装容疑については、学科の生徒は比較的守れているが、他学科との指導の差に不満を持つ生徒がいる。学校全体としての指導として取り組みを希望する。 ⑪学科としては保育園訪問しか実施できていない。ボランティアへの積極的参加など生徒の主体的な活動を促したい。					
	・課題を探索し解決する力や自ら考え行動し、適応していく力等、積極性、創造性を身につけた生徒						②家庭科技術検定試験2級3種目及び1級1種目全員取得に向けた指導の充実	3.5						
	・専門分野の学習を将来の職業にいかす意欲と実践力を身につけた生徒				学科の特色をいかした学校家庭クラブ活動の推進と生徒の主体的な学習態度の育成	3.0	③学校家庭クラブ活動の充実に向けた取組	2.7			④探求的学習活動（ホームプロジェクト・課題研究等）の充実	3.1		
							⑤場面に応じた生徒の活動と発表の場の設定	3.2				⑥自己実現に向けた積極的取組を促す進路指導計画の研究	2.8	
							キャリア教育の視点をとり入れた学習の推進と進路指導の充実	3.3					⑦インターンシップ及び外部講師招聘講習会の充実	3.8
	・豊かな人間性を身につけ、よりよい生活文化の伝承と創造ができる生徒				基本的生活習慣の確立とボランティアや異世代との交流活動の推進	2.9					⑧生活産業基礎・生活美学におけるキャリア教育の視点をとり入れた授業の実践	3.3	⑨保護者との連携による遅刻・早退・欠席の防止	3.0
							⑩清掃及び挨拶の励行と服装容儀指導の徹底	3.1			⑪異世代との交流活動や地域貢献活動の活発化に向けた研究	2.7		